

まずイスラエル・パレスチナのことですが、始めはハマスに対する抗議の風が吹いていたのですが、不思議なもので今は、イスラエルに対する抗議の風が強まっているようです。ただ私からすれば、戦争とはどちらが良い悪いではなく、大切な命を奪い合っているわけで、本当に平和を願うしかありません。改めて、朝夕のご供養の時に、心からの祈願をお願いいたします。

話は変わりますが、この教えの中で何が大切なのかと考えた時、その一つは「感じる」ということだと思います。よく会主さまが「あんた鈍感になってるんだよ」というご指導をされていました。人間は、目に見えないものを頂いた時、自分の勝手な部分で感じ、いいように取ってしまうことがほとんどです。これは個人指導やご指導のお話を聞く姿勢ではないです。耳の痛いことも感じなければいけないけど、人間というのは、自分の耳に心地いいことしか感じないのです。特に、感情的になっているときは、自分好みの指導を選びやすいです。その感じ方を改めないと、全てが尊いのに、自分たちの中で尊いものを振り分けてしまう。しかし、会主さま大導師さまがお作りになったこの素晴らしい教えは、1人1人が自然と共感してくれると私は信じていますし、それが正しい信仰だと思います。

しかし指導する側には、無理やり共感させることがよくないと理解している一方で、皆の共感がないと教勢が伸びないというジレンマがあり、私が会主さまにそのことをお聞きしたら「指導する人間は日々懺悔だ」とおっしゃったのです。

私たちがいろんな方から教わったこと、また会主さま大導師さ

まから頂いた素晴らしい功德、宝を、自分の感じ方により、潰さないようにするためには、指導する人、そして、指導を受ける人も懺悔なのです。懺悔により、自分の感じ方が正しくなかったことも気づき、次何かを頂く時に正しい感じ方ができるようになります。そうして私たちは、尊いものを、渡したり、もらったりできるのです。今年もあと2ヶ月、懺悔をぜひ、自ら進んで行って頂ければと思います。基本は、細かくです。親不孝の懺悔なら、親の名前がわかるのだから、誰々にたくさん親不孝して、その中で特にここだという具体的な部分を探し、発露して、申し訳ありませんでしたと言います。過去を振り返りながら細かく考えることも、懺悔の修行の一つです。30分でも1時間でも、目をつぶって懺悔を探してみてください。懺悔と願ほどきをしてお経です。懺悔と願ほどきをしないと途中であげなくなる。それは正しい感じ方を得られてないからです。懺悔ほど前進になる力はありません。

最後に、修行とは突き詰めると個人です。1人1人が、1人1人の懺悔を、1人1人がしなきゃいけない。それぞれの人生を歩んでいる、1人1人が、ありがたいと思うのが本当の共感です。大切なのは、因縁も、ご指導も、ご修行も1人1人違う。だから、あの人はやってないのに、あの人はこれでやっているのにとか、人を見ない方がいい。人は人で、自分は自分の修行をする、それが大切です。皆、人生そのもの、考え方そのものが違うのだから、それを一緒にしてはいけないのです。

人間は勝手に感じて、勝手に判断して泣き笑いするものですが、ぜひ懺悔をして正しい感じ方をしてください。そうして、1人1人がそれぞれのご修行をし、1人1人が功德を頂き、1人1人が素晴らしい結果を出せば、みんな良くなっていくわけです。